

駒大3

(関東2代表)

0-0
3-1

1環太

(中国代表)

1 回 戦



持ち味のドリブルから再三に渡り相手DFをかきまわした湯澤

「エンジンが入ったのが先制されたからだった」岡田監督代行は試合後こうこぼした。

序盤から主導権を握ったのは地力に勝る駒大だった。9分、12分と棗が裏に抜け出しゴールを予感させるシュートを連発して放った。その後もひたすら攻め続けるも得点できない時間が

KOMAZAWA

- GK①岡 大生(4)
- DF②酒井隆介(4)
- DF③林堂 眞(3)
- DF④亀井秀将(4)
- DF⑤山崎鉦吉(3)
- MF⑥金 正也(4)
- MF⑦金久保 彩(4)
- MF⑧奥村 情(2)
- (73分)⑩笠井雄太(4)
- MF⑪湯澤洋介(2)
- FW⑨棗 佑喜(4)
- (90分)⑩田中信也(4)
- FW⑫大塚涼太 (4)
- (68分)⑫肝付将臣(3)

[得点]

- 75分：酒井(湯澤)
- 76分：棗(肝付)
- 79分：金久保

KANTAIHEIYOU

- GK①植田峻佑(4)
- DF②松永康佑(3)
- DF③河本尚宏(2)
- DF⑫藪井 翼(3)
- DF⑬片桐瑞貴(3)
- (66分)⑧窪田和馬(3)
- MF⑦吉波毅願(3)
- MF⑫斉藤和鹿(3)
- (74分)⑭松本太郎(4)
- MF⑤小林祐輝(4)
- (80分)⑩森永圭介(3)
- MF⑬藤本陽平(3)
- FW⑫原田昌一郎(4)
- FW⑩森川龍成(4)

[得点]

- 72分：藤本(植田)

が長く続いた。この展開は一発カウンターに賭けていた環太平洋大にとってはむしろ好都合といえた。72分、環太平洋大の唯一の攻め手であるカウンターからまさかの失点を喫してしまった。この失点について金主将は「どこかに慢心があった」と苦い表情を浮かべた。しかし、これで駒大はようやく目が覚めた。わずか3分後の75分、酒井のゴールでまず同点に追いつくとその1分後、肝付の落としから棗が右足を振り抜き逆転ゴールを奪った。この一瞬の出来事に環太平洋大は動揺の色を隠せない様子だった。さらに78分にも1点を加えた駒大は苦しみながらも大事な初戦をモノにし2回戦に駒を進めた。(田中幸生)

2 回 戦

駒大1

0-0
1-0

0高知大

(関東2代表)

(四国代表)

KOMAZAWA

- GK①岡 大生(4)
- DF②酒井隆介(4)
- DF④林堂 眞(3)
- DF⑥金 正也(4)
- DF⑤山崎鉦吉(3)
- MF⑬笠井雄太(4)
- MF⑭碓井鉄平(1)
- (81分)⑩宮城雅史(2)
- MF⑦金久保 彩(4)
- MF⑩田中信也(4)
- FW⑨棗 佑喜(4)
- (85分)⑫肝付将臣(3)
- FW⑫山本大貴(1)
- (69分)⑫湯澤洋介(2)

[得点]

- [駒]50分：棗(金久保)

KOUCHI

- GK①片山裕登(3)
- DF⑬赤木秀(2)
- DF③斉藤友紀(4)
- DF④山部晃(2)
- DF⑥山岡正和(2)
- MF⑦香川大樹(4)
- MF⑦西山巧真(3)
- MF⑭芝野創太(4)
- MF⑧酒井貴政(4)
- (62分)⑫永野 覚(3)
- FW⑪竹内宏次郎(3)
- (67分)⑩福本圭(2)
- FW⑩布施祐典(4)
- (79分)⑨大西徹(4)

決勝点を挙げ勝利の立役者となった棗は、エースの仕事を引きこなし



試合後の選手たちの表情は一回戦とは比べ物にならないほど明るかった。「やられる気は全然しなかった」と金主将は振り返った。それは昨年、同大会準優勝の高知大の攻撃をことごとく跳ね返し続けられたからだろう。序盤から相手の攻撃に苦しんだが、必死のディフェンスでシュートを打たせずに決定的なチャンスを作らせない。一方の駒大は、28分に田中のクロスから、山本が合わせてネットを揺らしたが、オフサイドの判定で惜しくもノーゴール。このまま押し込まれた印象で前半を終える。

そんななか、試合が動いたのは、50分だった。金久保のロングフィードに抜け出した棗が「スペースがなかったので」と鋭い切り返してDFをかわずと迷わず左足を振り抜く。このシュートが見事にゴールネットを揺らし先制する。その後、高知大の前に押し込まれる展開が続いたが、CB林堂、ボランチ笠井を中心に最後まで粘り強く守り、最後まで相手の攻撃を跳ね返し続けた駒大が、40年以来的ベスト4へと進出した。(西山裕之)